

宮城県復興まちづくり通信

Vol.27

平成28年9月発行

宮城県土木部復興まちづくり推進室



トピック

1. 住まいの復興が着実に進んでいます

東日本大震災から5年半の月日が経過しました。津波により甚大な被害を受けた沿岸の各市町においては、全国からのご支援を頂きながら、復興まちづくりに向けて、防災集団移転促進事業や土地区画整理事業などの基盤整備や災害公営住宅の建設が着実に進められており、順次、宅地等の引き渡しが始まっているところです。

平成28年度も半年が経過しようとしており、今年度もこれまでに、東松島市の「野蒜ヶ丘」(野蒜北部丘陵地)で宅地の引渡しが始まったほか、災害公営住宅についても、気仙沼市最大規模の「鹿折南住宅」において入居が開始されるなど、恒久的な住まいの整備が着実に進んできております。

また、山元町や気仙沼市などでは復興まちづくりに合わせ、地域住民が参加したイベントも多く開催されるなど、かつてのまちの賑わいを取り戻しつつあります。

当室では、一人でも多くの方々が、復興の進展を実感していただけるよう、持続可能な地域づくりに向けて引き続き取り組んでまいります。

月日	市町	トピック
4月28日	気仙沼市	大浦地区災害公営住宅引渡(18戸)
5月28日	東松島市	野蒜ヶ丘防災集団移転宅地引渡し(87区画)
5月30日	東松島市	あおい地区災害公営住宅Ⅲ期Ⅳ期引渡(147戸)
6月26日	名取市	閉上地区(戸建1期)引渡(25戸)
6月30日	塩竈市	清水沢地区災害公営住宅入居開始(31戸)
7月15日	仙台市	六郷災害公営住宅引渡(50戸)
7月27日	東松島市	あおい地区災害公営住宅Ⅳ期引渡(36戸)
7月29日	気仙沼市	鹿折南住宅入居開始(110戸)
9月4日	東松島市	野蒜ヶ丘防災集団移転宅地引渡し(99区画)

表:平成28年度上半期の主な宅地・住宅等の引渡状況(一部)



写真:鹿折南住宅(気仙沼市)

2. 復興まちづくりの進捗状況について

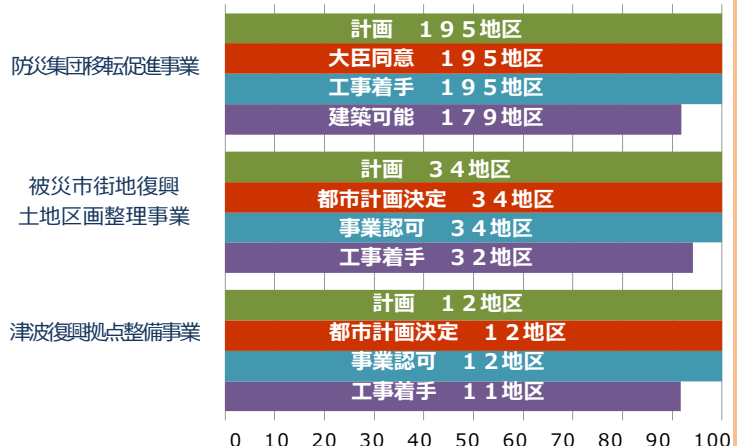
防災集団移転促進事業については、計画地区数195地区の全地区において事業計画の大臣同意を得て、工事に着手しており、住宅等建築可能地区は179地区(約92%)となっています。

被災市街地復興土地区画整理事業については、計画地区数34地区のうち、全地区において都市計画決定がなされ、事業認可は34地区(100%)、工事着手は32地区(約94%)となっています。

津波復興拠点整備事業については、計画地区数12地区の全地区において都市計画決定及び事業認可がなされ、工事着手は11地区(約92%)となっています。

各事業の進捗状況

〔H28.8末時点〕



復興まちづくり推進室の取組

1. 平成 28 年度まちづくり勉強会(特別編)を開催しました！

当室では、復興まちづくりの現状と課題を市町の皆様と共有しながら進めていくことを目的に、「復興まちづくり勉強会」を毎年定期的に開催しております。

今年度は、平成28年4月22日の第一回勉強会に続き、8月25日(木)に独立行政法人都市再生機構の御協力をいただき、「被災地での商業誘導、高齢者支援としての商業の可能性」をテーマに、「復興まちづくり勉強会 特別編」を開催いたしました。

当日は、講師として筒井企画事務所の筒井光康氏より「被災地での商業施設展開の可能性」、(株)セブン-イレブン・ジャパンの宮腰幸次氏および、(株)セブンミールサービスの山内昭二氏より「コンビニによる宅配サービスの被災地での可能性」、独立行政法人都市再生機構の安井俊二氏より、「URにおける施設誘致の事例」について御講演をいただきました。

本勉強会には、沿岸市町等から約70名の方々に御参加いただき、企業の被災地に対する考え方や被災地での出店例を交えた貴重な講演に熱心に耳を傾けておられました。

当室では、今後とも市町の復興の一助となるよう充実した勉強会を開催してまいります。



2. 復興まちづくり事業カルテ・産業用地カルテを更新しています！

当室では、沿岸市町における企業立地の検討材料として活用できるよう「復興まちづくり産業用地カルテ」を作成し、随時更新を行っているところですが、新たに多賀城市・名取市・岩沼市をカルテに加え、平成28年7月時点で内容の更新を行いました。

また、「復興まちづくり事業カルテ」につきましても、平成28年3月末時点の「住まいの復興工程表」や、復興交付金第15回配分事業などを反映させ、平成28年7月時点で内容の更新を行っております。

なお、「復興まちづくり事業カルテ」は年2回の更新を予定しており、次の更新は平成28年12月を予定しております。

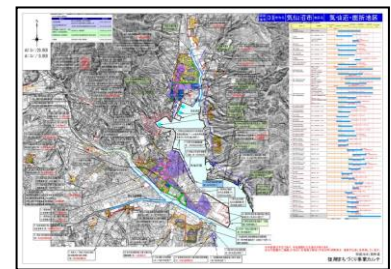
「復興まちづくり事業カルテ」・「復興まちづくり産業用地カルテ」は、当室HPでご覧いただけます。

■復興まちづくり事業カルテ

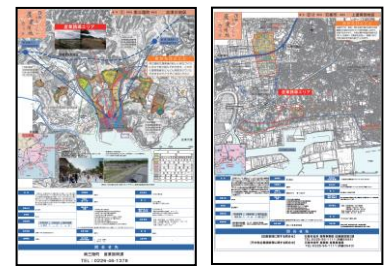
<http://www.pref.miyagi.jp/site/karte/>

■復興まちづくり産業用地カルテ

<http://www.pref.miyagi.jp/site/karte-sangyou/>



復興まちづくり事業カルテの一例



復興まちづくり産業用地カルテの一例

3. みやぎの復興まちづくりパネル展を開催しています！

当室では、昨年度に引き続き、これまでのご支援に対する感謝の気持ちと引き続きの支援の願いを込め、県内外各所で「みやぎの復興まちづくりパネル展」を開催しております。今年度はこれまでに、塩竈市マリゲート塩釜や美里町の総合案内所で実施しているほか、11月中旬には東京都庁での開催を予定しております。

なお、パネルの貸し出しも行っておりますので、イベント等で活用を希望する場合は当室までお問い合わせ願います。

■みやぎの復興まちづくりパネル展ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/site/fukkopanel/>



◇ 各地域の動き

東松島市 太陽光発電所の起工式を行いました

宮城県では、平成28年9月13日に東松島市野蒜地区で太陽光発電所の起工式を開催いたしました。この事業は、防災集団移転促進事業の移転元地、約2.6ヘクタールを利用して太陽光パネルを設置し、当該施設で発電する電気の売電収益をもとに、土地改良区が関連施設の維持管理を行い農業経営の負担節減を図ろうとするものです。

本事業は、防災集団移転元地を利用した県の創造的復興のモデルとして、地元とも連携を図りながら、早期完成に向け推進してまいります。



写真：起工式の様子

◇ 市町村からのたより

1. 気仙沼市 大谷海岸地区のまちづくり方針（基本事項）が了承されました

気仙沼市大谷海岸地区は、『快水浴場百選』に認定された大谷海水浴場と道の駅「大谷海岸」を中心に観光・商業など地域の賑わいの拠点となっておりましたが、東日本大震災により、従前あった全ての機能を喪失したため、地域住民が復興を願い自ら復興計画を作成しました。

復興計画の作成に当たっては、振興会（自治会）や地区の若手メンバーなどにより組織された「大谷里海づくり検討委員会」が中心となり、海水浴場の再開に必要な砂浜の確保、防潮堤のセットバックと国道との兼用、国道背後地の嵩上げと嵩上げ地における道の駅の再建を基本に、安全・安心で賑わいのある故郷再生を目指してきました。

市では、地域課題の解決と賑わいの復興のためには、地域要望の実現が不可欠であると考え、国・県などの関係機関と協議・調整を重ね、特段の御理解と御協力を得て、平成28年7月30日に住民説明会を開催し、基本事項について合意が図られました。

今後は各事業の早期着工・完成のため、地域住民や関係機関と協働し、一層の推進に努めてまいります。

気仙沼市建設部計画・調整課



写真：（上）説明会の様子（下）大谷海岸

2. 南三陸町 志津川東団地で「さくらの森植樹祭」

南三陸町の志津川東団地は、震災後の新たなまちづくりのモデル地区として位置づけられています。そこで住民参加型の植樹イベントを開催することにより、新しいまちの風景づくりの一助とするため、平成28年5月28日に「さくらの森植樹祭」を同団地にある調整池周辺で行いました。

当日は天候にも恵まれ、41名の参加をいただいて桜の苗木を2名1組で植栽し、その後樹名板の作成、取付けを行い、大盛況のうちに無事終了いたしました。

大きく育って花見ができる日が来るのを楽しみにしています。

南三陸町 復興市街地整備課



写真：植樹祭の様子

3. 山元町 つばめの杜地区で2つの施設が完成しました

■「山元町山下第二小学校」が完成しました。

防災集団移転促進事業により整備された、山元町つばめの杜地区（新山下駅周辺地区）に津波により被災した「山下第二小学校」が移転復旧することになり、平成28年8月25日に新校舎が完成しました。

新校舎は、7つの連続した傘型屋根構造となっており、太陽光パネル、太陽熱集熱システム、自然採光など町の気候を最大限に利用した構造となっております。

また旧校舎で使用した木の板を「げた箱」に再利用し、被災を免れた置き時計も昇降口の正面に設置したほか、旧校舎昇降口にあったモニュメントは、登校してくる児童を迎えるように正門前に移設しました。

山元町の将来を担う児童の学びやとして、ふさわしい校舎がよみがえりました。



写真:完成した山下第二小学校(左)モニュメント(中)被災を免れた時計(右)

■「山元町子育て交流拠点施設」が完成しました。

平成28年7月24日、つばめの杜地区（新山下駅周辺地区）に、子育て拠点施設（つばめの杜保育所、こどもセンター）が完成しました。

つばめの杜保育所の園庭は、子どもたちが裸足で走り回れるように、やわらかいティフトン芝を全面に敷設してあります。

こどもセンターは「児童館」、「子育て支援センター」、「山下第二小学校児童クラブ」の3つの機能を兼ね備えた施設となっており、0～18歳の児童等が遊んだり、勉強、読書をしたり、また子育て中の親子が気軽に集まって交流を図るなど、自由に過ごしてもらうことができます。

今後も“子育てするなら山元町”の実現に向けて取り組んでまいります。

山元町震災復興企画課



写真：子育て交流拠点施設

○問い合わせ先 宮城県土木部復興まちづくり推進室
〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8-1
TEL.022(211)3207 FAX.022(211)3295
e-mail fukumachi@pref.miyagi.jp
HP <http://www.pref.miyagi.jp/fukumachi/>

復興加速



復興実感

がんばるっちゃ！
宮城県土木部